美しい〈筆記体〉が書けるようになります。

英語の名文をなぞる

〈筆記体〉練習帳

Cursive Handwriting Workbook

三瓶 望美 筆記体

研究社編集部 編

研究社

はじめに

近頃、英語の筆記体を見かけることが少なくなりました。文字はキーボード入力が主流となり、メモなどは別としても、文章や手紙をペンなどで書くことが少なくなっています。かつて筆記体は学校で必ず教わりましたが、新しい学習指導要領では必須ではありませんので、英語の筆記体を知らない（書けない）学生がほとんどだそうです。これはアメリカにおいても同様の現象だと聞きます。今では、もっぱらブロック体（一文字ずつを独立させて書く書き方）が使われ、筆記体はどんどん存在感をなくしています。

そのような状況の中、流麗で華麗な筆記体を“絶滅”させたくないという思いと、熟年の皆さんには懐かしく、若年層には逆に新鮮に映るのではないかという思いから、本書を企画した次第です。

そして、せっかく書くのであれば名文を、ということで、様々なジャンル（小説、詩、戯曲、名言、評論、演説など）から「なぞる」のに適した英文やフレーズを選び、和訳と簡単な解説を付けました。

お手本の筆記体を鉛筆やサインペン、万年筆などでなぞり、できればその名文を音読して楽しんでください。

なお、本書の筆記体は、カリグラファーとしてご活躍の三瓶望美氏にお願いしました。筆記体には様々な種類がありますが、52度に傾けた美しい筆記体で、さらに行頭の書き出しの一文字は装飾的に書いていただきました。前と後ろの見返し「筆記体の基本練習」や、「本書の使い方」も参考にしてください。

2016年 春

研究社編集部

本書の使い方

書くときのコツ

□ **身体は紙に対して正面に**

字の形と筆圧が安定します。

□ **ゆっくり書く**

急がず落ち着いて書くのがポイント。

□ **長い単語は途中で休む**

長い単語は一気に書かずに、途中で一息つくのも手です。

□ **ときには装飾文字も**

行頭の書き出しで装飾的な文字を使うと、アクセントになります。

筆記体の効用

□ **集中 & リラックス！**

正しい姿勢で、文字を書くことに集中していると、自然とリラックスできます。

□ **英米文学への案内書**

本書は筆記体の練習帳であるとともに、英米文学への案内書でもあります。気に入った作品は、翻訳や原書を手に取ってみましょう。

オススメの筆記用具

□ **鉛筆**

□ **サインペン**

□ **万年筆**

筆記用具は何でもOK。自分の好きなものを使いましょう。

□ **トレーシングペーパー**

トレーシングペーパーを利用すれば、何度でもなぞれます。

筆記体を生活に

□ **手紙やカードに**

お気に入りの文章を、手紙やカードに添えるとおしゃれです。

□ **英語の勉強に**

英語を継続的に学ぶのはなかなか大変。筆記体は英語学習の気分転換にもなります。難しい綴りの単語も書いて覚えましょう。

目次

筆記体の基本練習 …… 見返し(表・裏)

1 春の朝 ロバート・ブラウニング 6
2 水仙 ウィリアム・ワーズワス 8
3 荒地 T・S・エリオット 10
4 草の葉 ウォルト・ホイットマン 12
5 アナベル・リー エドガー・アラン・ポー 14
6 もし駒鳥たちがやってくるころ エミリー・ディキンソン 16
7 行かなかった道 ロバート・フロスト 18
8 ことわざ 20
9 名 言 英国・アラブ・スウェーデン 22
10 名 言 アルベルト・アインシュタイン 24
11 名 言 ジョージ・バーナード・ショー 26
12 名 言 サミュエル・ジョンソン 28
13 結婚にまつわる「名言」 30
14 お金にまつわる「名言」 32
15 悪魔の辞典 アンブローズ・ビアス 34
16 マザーグース(きらきら星) 36
17 マザーグース(男の子は何でできているの?) 38
18 グリーンスリーヴス 40
19 スカボロー・フェア 42
20 ハムレット ウィリアム・シェイクスピア 44
21 リア王 ウィリアム・シェイクスピア 46
22 オセロ ウィリアム・シェイクスピア 48
23 マクベス ウィリアム・シェイクスピア 50
24 ロミオとジュリエット ウィリアム・シェイクスピア 52
25 ヴェニスの商人 ウィリアム・シェイクスピア 54
26 あらし ウィリアム・シェイクスピア 56
27 真夏の夜の夢 ウィリアム・シェイクスピア 58
28 宴の夜 ウィリアム・シェイクスピア 60
29 ジュリアス・シーザー ウィリアム・シェイクスピア 62
30 ガリヴァー旅行記 ジョナサン・スウィフト 64
31 高慢と偏見 ジェーン・オースティン 66
32 嵐が丘 エミリー・ブロンテ 68
33 サイラス・マーナー ジョージ・エリオット 70
34 不思議の国のアリス ルイス・キャロル 72
35 ジキル博士とハイド氏 ロバート・ルイス・スティーヴンソン 74
36 二都物語 チャールズ・ディケンズ 76
37 エリア随筆 チャールズ・ラム 78
38 ドリアン・グレイの肖像 オスカー・ワイルド 80
39 月と六ペンス サマセット・モーム 82
40 灯台へ ヴァージニア・ウルフ 84
41 チャタレイ夫人の恋人 D・H・ロレンス 86
42 1984年 ジョージ・オーウェル 88
43 リップ・ヴァン・ウィンクル ワシントン・アーヴィング 90
44 アッシャー家の崩壊 エドガー・アラン・ポー 92
45 白鯨 ハーマン・メルヴィル 94
46 森の生活 ヘンリー・デイヴィッド・ソロー 96
47 賢者の贈り物 O・ヘンリー 98
48 グレート・ギャッツビー F・スコット・フィッツジェラルド 100
49 老人と海 アーネスト・ヘミングウェイ 102
50 ヨハネによる福音書 104
51 武士道 新渡戸稲造 106
52 茶の本 岡倉天心 108
53 功利主義論 ジョン・スチュアート・ミル 110
54 種の起源 チャールズ・ダーウィン 112
55 正統とは何か G・K・チェスタトン 114
56 自己信頼 ラルフ・ウォルドー・エマーソン 116
57 剣の教義 マハトマ・ガンディー 118
58 アメリカ独立宣言 トーマス・ジェファーソン 120
59 ゲティスバーグ演説 エイブラハム・リンカーン 122
60 大統領就任演説 フランクリン・D・ルーズヴェルト 124

1

春の朝

Pippa's Song

ロバート・ブラウニング　イギリス

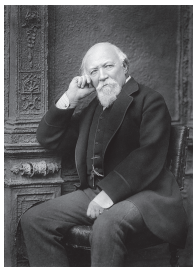
Robert Browning　詩

The year's at the spring
And day's at the morn;
Morning's at seven;
The hill-side's dew-pearled;
The lark's on the wing;
The snail's on the thorn;
God's in his heaven —
All's right with the world!

時は春、
日は朝(あした)、
朝は七時、
片岡(かたおか)に露みちて、
揚雲雀(あげひばり)なのりいで、
蝸牛(かたつむり)枝に這(は)ひ、
神、そらに知ろしめす。
すべて世は事も無し。

（訳：上田敏）

解説　ロバート・ブラウニング（1812-1889）は、イギリスの詩人。取り上げたのは、Pippa Passes（ピパが通る）という長篇劇詩の一節である。日本では、上田敏の訳詩集『海潮音』（1905）の中で、特に多くの人に愛唱された一篇で、「春の朝(あした)」（ピパの歌）として知られている。ブラウニングの詩は、夏目漱石や芥川龍之介など、文豪たちへも大きな影響を与えた。「神、そらに知ろしめす。すべて世は事も無し」。上田敏の心地よい韻律の訳詩は、つい声に出してみたくなる。



The year's at the spring

And day's at the morn;

Morning's at seven;

The hill-side's dew-pearled;

The lark's on the wing;

The snail's on the thorn;

God's in his heaven—

All's right with the world!

2

水仙
The Daffodils

ウィリアム・ワーズワス
William Wordsworth

イギリス
詩

I wandered lonely as a cloud
That floats on high o'er vales and hills,
When all at once I saw a crowd,
A host, of golden daffodils;
Beside the lake, beneath the trees,
Fluttering and dancing in the breeze.

わたしは谷あいや　小山のうえに高く浮かぶ
白雲のように　ただひとりさ迷い歩いた。
すると　とつぜん　金色に輝く
黄水仙の花の　大きな群れを見た。
湖のそば　木々のした、黄水仙は
そよ風に　ゆらゆらと躍っていた。

（訳：出口保夫）

解説 ウィリアム・ワーズワス（1770-1850）は、イギリスの代表的なロマン派詩人。北西イングランドの湖水地方をこよなく愛し、「湖水詩人」として知られる。取り上げたのは、「水仙」の冒頭部分。ダフォディル（daffodil）は、ウェールズの国章である「ラッパズイセン」で、淡黄色の花を咲かせる。散策の途中、突然、目に飛び込んできた黄金色の水仙の群生、そよ風に揺れる花々。感動的である。

I wandered lonely as a cloud

That floats on high o'er vales and hills,

When all at once I saw a crowd,

A host, of golden daffodils;

Beside the lake, beneath the trees,

Fluttering and dancing in the breeze.

3

荒地
The Waste Land

T. S. エリオット
T. S. Eliot

イギリス
詩

April is the cruellest month, breeding
Lilacs out of the dead land, mixing
Memory and desire, stirring
Dull roots with spring rain.
Winter kept us warm, covering
Earth in forgetful snow, feeding
A little life with dried tubers.

四月は残酷きわまる月だ
リラの花を死んだ土から生み出し
追憶に欲情をかきまぜたり
春の雨で鈍重な草根をふるい起こすのだ。
冬は人を温かくかくまってくれた。
地面を雪で忘却の中に被い
ひからびた球根で短い命を養い。

（訳：西脇順三郎）

解説 T（トマス）・S（スターンズ）・エリオット（1888-1965）は、アメリカ生まれのイギリスの詩人、劇作家、文芸評論家である。取り上げたのは、5部からなる長詩『荒地』（1922）の有名な冒頭部分である。特に1行目の「四月は残酷きわまる月だ」はとても印象的で、よく知られているが、長詩ゆえ、引用が中途半端になっていることをお許しいただきたい。エリオットは1948年にノーベル文学賞を受賞している。

April is the cruellest month, breeding

Lilacs out of the dead land, mixing

Memory and desire, stirring

Dull roots with spring rain.

Winter kept us warm, covering

Earth in forgetful snow, feeding

A little life with dried tubers.